

まちづくりの将来像

本市は、暮らしやすい都会な部分と、豊かな水と緑があふれる生活環境とを兼ね備え、「ほどよく田舎 ほどよく都会なまち」というイメージを持った都市へと発展してきました。

上位計画の第五次稲城市長期総合計画の将来都市像である「緑につつまれ 友愛に満ちた市民のまち 稲城 みんなでつくる 笑顔と未来」を受けつつ、従来の目標像を継承し、本市のまちづくりの基本的な方向を次のように設定します。

都市計画マスタープラン まちづくりの将来像

緑と水につつまれ 人とふれあうまち 稲城

— ほどよく田舎 ほどよく都会なまち —

まちづくりの目標

1	活気に満ちたふれあいのあるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆中心地区は市民の活動・交流を繋ぎ、都市の活力を高める市街地を目指します。 ◆各拠点は、商業地や公共施設、恵まれた自然環境・レジャー施設等の観光資源が活かされ、日常生活や余暇活動を通じて、人々がふれあい、賑わいがある拠点を目指します。 ◆住宅地は、水と緑に溢れ、誰もが安心して住み続けられる良好な住環境の維持を目指します。
2	豊かな自然環境と共生できるまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆多摩川や多摩丘陵、三沢川、大丸用水等の豊かな自然資源が保全され、それらの水と緑を公園・緑地に活用するとともに、里山の自然や農地が維持された良好な環境を目指します。 ◆環境負荷の低減や地球温暖化対策の推進、生物多様性の保全に努め、自然と共生するなどグリーン社会の実現に向けたまちを目指します。
3	まちなみの美しさが映えるまちづくり	◆地域ごとの特色による良好な景観形成を図り、魅力あるまちなみが保たれたまちを目指します。
4	安全な交通ネットワークで結ばれた一体的なまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆各拠点は有機的な交通ネットワークで結ばれ、鉄道・バス・自家用車・自転車・徒歩、さまざまな交通手段で安全に行き来できる一体的なまちを目指します。 ◆公共交通や自転車の活用により、低炭素化道路交通システムの構築を目指します。
5	安全・安心して暮らせる災害に強いまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆幹線道路については無電柱化が進み、生活道路における狭あい道路は解消され、緊急時に対応した道路網が整い、地震や局地的な集中豪雨等自然災害に強いまちづくりを目指します。 ◆防災・防犯・交通安全等に対し、行政と市民が一体となって、意識向上と地域活動に取り組みます。
6	誰もがいきいきと暮らしやすいまちづくり	◆子どもから高齢者、障害者等、誰にも安全・安心で利便性の高く、暮らしやすいユニバーサルデザインに配慮した環境づくりとして、歩きやすい道づくりや、誰もが集える魅力ある公園づくり等に取り組みます。
7	みんなで繋ぎ、受け継ぐ協働のまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆里山の保全やアダプト制度等、水・緑の保全を市民と協働で進めるとともに、水・緑・歴史・文化・コミュニティを次世代へ繋ぎ、受け継げるまちづくりを目指します。 ◆シビックプライドを持つ市民が、多様化・複雑化する市民ニーズや地域課題を、行政と市民で協力しながら解決するまちづくりを目指します。

【参考】第5次稲城市長期総合計画の将来都市

第5次稲城市長期総合計画の将来都市像

緑につつまれ 友愛に満ちた市民のまち 稲城

— みんなでつくる 笑顔と未来 —

I 子育て・教育・文化

育ち・学びを通じてだれもが輝けるまち 稲城

II 保健・医療・福祉

だれもが地域で健やかに暮らせるまち 稲城

III 環境・経済・観光

水と緑につつまれ 活力あふれる賑わいのまち 稲城

IV 都市基盤整備・消防・防犯

安全でだれもが安心して快適に暮らせるまち 稲城

V 市民・行政

みんなでつくる 持続可能な市民のまち 稲城

※なお、まちづくりの将来像やまちづくりの目標については、今後の策定に向けた検討のなかで、変更する場合があります。

将来都市構造

◇将来都市構造とは？

将来都市構造は、まちづくりの目標を実現させることで、将来のまちの姿としてイメージされるものです。

多摩川河川敷や多摩丘陵などの緑空間からなる市街地を包む緑の環、地域の日常生活やコミュニティ活動の場などになる各地域の拠点、これらを結ぶ交通ネットワーク構築による交通環境の整備など、さまざまな都市機能の配置について示します。



1 都市拠点

各都市拠点は、徒歩を基本とした身近な日常生活をサポートする拠点として適切に配置・誘導し、地域に密着した生活サービスやコミュニティ活動の場となるよう土地利用の誘導やまちづくり活動の促進を図ります。

●中心地区(活力創造拠点)

稲城長沼駅周辺地区・稲城駅周辺地区・行政ゾーンおよびこれらをつなぐ市街地(稲城の顔となる地区)

●広域連携拠点(サブ拠点)

若葉台地区

●レクリエーション拠点

京王あみりランド駅周辺地区～南山東部地区

●生活拠点

矢野口駅周辺地区、南多摩駅周辺地区、向陽台地区、長峰地区

2 交通ネットワーク

各拠点を有機的に結ぶため、都市計画道路の整備、公共交通機関の充実及び自動車交通を円滑に処理すること等、交通ネットワークの強化が求められます。また、災害時の安全かつ迅速な緊急輸送が可能な交通ネットワークも必要です。交通ネットワークの強化においては、自動車だけでなく、自転車・徒歩による移動にも配慮し、子どもから高齢者、障害者等、誰にも移動しやすい道路を目指します。

●広域交流ネットワーク

JR南武線・京王相模原線の鉄道、川崎街道や南多摩尾根幹線、鶴川街道、多摩川原橋、是政橋、稲城大橋から中央自動車道への接続、社会経済状況に応じた新たな交通ネットワークにより、本市や周辺都市との連絡を強化するネットワーク

●生活交流ネットワーク

主要生活道路等を軸に、多様な交通手段が確保された各拠点とのネットワーク

3 緑の環の形成

本市の緑の骨格となる多摩川河川敷や多摩サービス補助施設、多摩丘陵の斜面緑地、大規模公園等を、市街地を囲うように拡がる「緑の環」として位置付けています。緑の環においては、環境学習の場、レクリエーション・交流の場、散策の場等として一部活用しつつ、適切に維持・管理・保全を目指します。

●コミュニティ保全緑地

妙見寺周辺や穴澤天神社周辺をはじめ、多摩丘陵の斜面緑地においては、市民参加等による保全を目指す緑地

●多摩川・三沢川

多摩川は、河川敷等の維持を図るとともに、市民の憩い・交流の場となるレクリエーション空間として活用を図り、三沢川は、川沿いから各地域の市街地や緑空間を結び、水・緑を介した市民の出会いの場を形成